

好き!
を仕事にした
女性物語 56



このピンクのアコーディオンで、
イメージを若い女性にも身近なものに
変えていきたいと思っています。



アコーディオンプレイヤー
かとう かなこさん(26歳)

●1979年、大阪府生まれ。オフィシャルサイト<http://www.katokanako.com/> 道内のコンサート予定は5/19(木)札幌、5/21(土)小樽、5/22(日)帯広。問い合わせは「キコキコ商店」(TEL011-521-0008、<http://www1.odn.ne.jp/ks>)へ。

「かなこ」スタイルで演奏
ジャンルにとらわれず
かとうさんが手にしているのは
クロマチック(半音階)ボタン式ア
コーディオン。日本はピアノ式が
一般的で、かとうさんもフランス
留学を機に転向した。「ウチ以外
は全員ボタン式で、初めて抱っこ
してみた時、体に納まる感じがす
ごくかわいかったです」。鍵盤よ
り音の立ち上がりが遅いため速弾
きに有利といった特徴もあり、以
来、200個ものボタンを操るこ
のアコーディオンをパートナーに、
オリジナルを含むさまざまな曲に
挑戦。ジャンルにとらわれない独
自の世界も、留学時の経験から育
まれた。「それまではクラシックだ
ったんですが、同年代の仲間が自
由に演奏している様子を見て、型
にはまらず自分の好きなことをや
つていいんだと思えたんです」

観客と交流できるライブが
一番楽しくて大好き!
演奏活動は全国各地で行って
おり、昨年から北海道へ来る機会
も増えた。「ライブが一番楽しく
て大好きな趣味みたいなもの。終
わった時にお客さんが笑顔になっ
て、来しかったとかヤル気が出た
と言ってくれると、それがウチに
返ってきて、また頑張れるんです」
アコーディオンは体に密着させて
演奏するため、中々音が響いてい
るのを直接感じられるのがたまら
ない魅力。「細かい音の表現がしや
すいところもすごく好き。体力的
にアコを持ってなくなるまで、弾き
続けようと思っています。日本で
のマイナーなイメージを、若い女性
にも身近なものに変えていきたい
んです」。ピンクのアコーディオン
をオーダーしたのもそのため。彼
女の演奏、ぜひ一度聴いてみて!

より良い演奏の
ために体力アップ!
アコーディオンは1台
約9~15kgの重さ。それを抱いて演奏するの
は「スポーツみたいなので、体力がないと持
たない」。2年前からジム
に通って体を鍛えてお
り、成果を実感。



4年間の留学で成長
帰国してプロに

パリ市立音楽院アコ
ーディオン科、GNIMA
国際アコーディオン学
院で4年間留学。在学
中に全仏コンクール第1
位に。帰国し、舞台出
演、コンサート、CDリ
リースなどで活躍中。

高校卒業後、
フランスへ留学

17歳で全日本アコ
ーディオンコンクール総合
第1位。高校卒業後も
アコーディオンの勉強を
続けたかったが、国内で
は進学の間がなく、アコ
ーディオンの盛んなフラ
ンスへ留学。

父の指導で4歳から
アコーディオンを

アコーディオンが趣味
の父の指導で4歳から
受け始め、小2からは先
生に就いてレッスン。毎
日の練習が習慣で、「苦
にならなかったのは今思
えばやはり好きだったん
でしょうね」

好き
ののために
していることとしたこと

好き
に向ったプロセス